

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295800078		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム 実夢静波 1階ユニット		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	令和元年5月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年6月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域密着型施設の名前の通り、地域交流に力を入れた施設運営を心掛けております。入所後身体的に負担が大きくなってきても関連施設との連携により長く安心して生活が出来ます。認知症は意思疎通が困難で笑顔が少なくなりがちですが、過去の生活歴を考慮しながらご利用者さんの残存能力を生かし笑顔が一つでも多くみられるように配慮しております。また入所に関係なく介護にかかわる様々な相談窓口としての施設運営を目指し、施設から地域へ、地域から施設へと地域密着型施設でしかできない活動発展に力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「働きやすい職場を」というビジョンを持ち、正規職員10名の内半分が5年以上勤務となり、徐々に目標が成果に結ばれつつある事業所です。職員の得意、不得意を見極めつつ、管理者の業務である請求や通院介助なども割り振ってゆき、職員の意欲とともに自主性を養っています。例えばポテンシャルがあってもパートタイマー職であることで取組む業務が制限される人には、敢えて相談業務の場面に同席させて正職への青写真が描けるよう支援したり、「どこからお金が発生して何に使われているかを実感することも大事」として請求業務を手伝う職員もいて、チームワークの良さもフロアに滲んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ただ介護する」ということに留まらなくようにしています。 地域密着型施設とは何を指すための施設なのかを話し合い各フロアに提示し各職員が常に、繰り返し確認できるようにしています。	理念である「本人の意思が尊重され、居心地の良い生活が過ごせるよう支援します」は、毎年職員が個々に立案する目標の基軸として在り、またその振り返り(年4回)の機会があることで、浸透と進捗の確認が成されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの来訪を積極的に取り入れ地域にもこの施設がどのような施設なのかを発信しています。	ボランティアの来訪回数は目標を立て、呼びかけに尽力しており、近所の方が蕎麦打ちを披露くださる日もあり、花火大会では駐車場を貸し出したり、花の苗木が運ばれてきたりといった地域交流が見られます。また小学校からはアルミ缶で得た収益が届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて施設発行の新聞に活動風景の写真をふんだんに掲載し活動状況をお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、意見交換を交わしています。地域での心配事や、介護保険の制度の質問も話し合われます。	年間計画を立て、行政・地域・家族・職員とメンバーを揃え、議事録も整備しています。民生委員や自治会長からは「社協の会場は使えるよ」といった身近な情報のほか、防災や独居等地域の課題もあがっていて、有意義な場に昇華しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて行政や包括支援事業者の方々にも参加をいただいています。	運営推進会議の案内は事業所から出してはいますが、地域包括支援センター、市役所、事業所との情報共有がうまくなく、過去2年間の行政出席が大変少ない状況にあります。今後は密な連携を以て推進していきたいとしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な話し合いで分かりにくい身体拘束の行為についても話し合っています	昨年の法改正については指針を整備しています。身体拘束廃止委員会の年4回の開催され、研修会も2回以上、新入職員の研修と課せられたことを実施できています。また職員は挨拶も朗らかで、利用者の関わりも丁寧なことを視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はあって虐待行為はあってはならない行為です。施設内にカメラを設置しています。管理者が厳しくチェックしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で行政から権利擁護の説明をいただいています。独居暮らしの高齢者が困らないように学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後に「こんな話は聞いていない」など施設と、ご利用者さんで揉めてしまうのは入所前の説明不足によるものです。細かなことでもご利用者さんの立場になり説明をしています。またそれが一番揉めてしまうことを回避できる近道です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に何気ない会話でもなるべく家族とお話をするように心がけています。何気ない会話から家族が抱えている不安や、施設に対する思いも確認できる時があります。	面会の少ない家族には毎月の請求書と一緒に1ヶ月の様子を綴った「今月の〇〇さん」という情報共有シートを届けています。シートを発行して以来、「あの内容が少し気になったから」といった理由等から、家族の面会が増えていて活気が生まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談にて介護報酬の話や処遇改善金について話し合う機会を設けています。	運営推進会議は2階フロアの利用者に1階に下りてもらい、合同でレクリエーションなどで愉しんでもらう時間を利用して、職員も2、3名が参加できています。また職員配置にも余裕があることから管理者にも愚痴が届くほどオープンで、大半が5日の有給消化を完了しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課」を導入し各職員が目標を計画し、業務にやりがいや考える力を養っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部が開催している会議に参加し、職員のスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業所連絡会に参加し意見交流の場を設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には家族の面談を密に行い施設入所への理解を深めています。納得してご入所していただかないと後々困ることが多くなります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族が抱えている不安にしっかり耳を傾け施設で取り込めることやすでに取り組んでいることを話し合い関係づくりにつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談＝入所ではなく、本人の家族の置かれている状況を把握し、場合によっては他のサービスの可能性についても親身になり相談を受けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒に作ることや、買い物のお手伝いをさせていただくなど一緒に出来ることは一緒にやります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な面会の際にもなるべく家族と会話をできるようにこころがけ、最近の様子などをお知らせするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、それまでのかかりつけ医との関係をなるべく切ることがないようにできる限りの支援を続けています。	息子はいても運転免許を持っていないということから、「墓掃除と墓参りに一緒に…」と頼まれて、管理者が付添ったこともあります。美容院で先生と呼ばれていた利用者は、弟子の一人が好みの髪色に染めてくれていて、訪問時は蜜柑をイメージしたという黄と緑でした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の活動をする場面を設け、ご利用者同士が交流できるように配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遠慮なく声掛けしていただけるように関係づくりに力を入れています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん一人一人に担当職員を配置し、ご利用者さんの意向の把握に努めています。その後スタッフ会議などで各職員が解決できない問題は話し合い解決できるような環境を整えています。	世話焼きの人、指導者的な人、和を重んじる人、従順な人、其々の特長を掴みつつ、優しいリレーションで穏やかな場を演出する職員の姿があります。また「メイちゃんに会いたい」との要望に応じて愛犬と連れだって家族が訪れていて、他の利用者も飲んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前訪問をし、本人の意向や趣向を取り入れたサービス展開に力を入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の事前調査にてこれまでの生活スタイルをなるべく崩さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がスタッフ会議などで意見交換を行い、それぞれの職員が忌憚のない意見交換が行えるように配慮しています。	現在事業所には計画作成担当者となれる職員が5名います。サービス担当者会議は「全員」ではなく、必要に応じておこなっていますが、新しく着任の介護支援専門員は「介護計画書を届けつつ、家庭訪問をしたい」との、積極性を見せてくれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも連絡ノートを活用して問題点を即座に改善できるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったマニュアルでの施設生活の提供をするのではなく個々の状況に合わせた過ごし方を提供しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やボランティアさんを活用し本人の残存能力が発揮できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度病院より医師が往診に訪れご利用者さんの体調不良について相談に乗って頂いております。往診では検査しきれない状態は甲賀病院へ受診をして適切な処置を行います。	母体の病院から医師が訪問診療として月1度訪れていて、管理者が立ち会うようにしています。専門医についても「最近どうですか?」と聞かれて家族は明瞭に回答するのが難しいので通院介助は職員がおこない、全ての医療情報は「受診ノート」に記録を残しています。	母体病院の医師から意見を仰げる好機なので、訪問診療には家族の立ち合いを求めると、信頼がつくれてなおよいと思います。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に訪問していただき、健康の相談に乗っていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と密に連絡を取りながらなにか心配事があるときにはすぐに相談できるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した際の対応について十分話し合い、当施設でできることや、関連施設の活用など説明しています。かかりつけ医にも同様の説明をおこない、医師の考えも参考にしながら家族への対応を考えています。	医療連携加算はとっていますが、看取りはおこなっていません。フロアに車いすでもよいので出てこれて皆で過ごせることと、介助が必要でも口径摂取ができることを一つの目安として、そこが難しいとなれば医師の指導も得て移設を家族と話し合うこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で緊急時の対応について勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。当施設にはスプリンクラーの設置もあり、法人内でも防災についての会議や研修を頻繁に行っています。	消防署からの注意点を防火管理者が説明する等きめ細やかに法定訓練を2回おこなっています。また「利用者が間違っ火災報知器を押してしまった場合どのような段取りでおこないますか」といった具体的なメニューも訓練日に限らず重ねて習熟しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議などで個人情報の取扱いについての重要性を十分に周知させ、職員一同個人情報の重要性に意識を持たせています。認知症で意思疎通が困難なご利用者にも人格があることを忘れず常に意識しています。	管理者は普段から「職員間も敬語で話すように」と指導してきており、それが実った様子が職員から読み取れ、また利用者の書道を指南する職員が「墨の香りにはリラックス効果もあるみたいで…」と嬉しそうに話す様子にも安寧が滲んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者さんに担当職員を配置させ、ご利用者さんの自己決定や、自己表現できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にプレーキをかけることがないように「今何ができるのか？」を常に考えご利用者さんの状態や天気や季節に応じてできることを考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は人としての動作では基本中の基本です。ご利用者が自ら整容するのは困難なため、職員が声掛けしながら丁寧に整容しています。尚服についても可能であれば一緒に買いものに出かけたり、着る服についても自ら選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さんの一番の楽しみは食事といっても過言ではありません。施設では外食の機会を多く設けています。当施設では食事係という係りが編成され、ご利用者の状況や好みを考察しています。	買い物日を設けていて、副菜が3品にデザートも付き栄養バランスが考えられた献立を提供しています。ご愛顧の魚屋も2軒あり、刺身と餃子が大人気で、職員もやりがいをもって取組んでいます。外食は回転寿司や珈琲店、ラーメン店と様々な行きつけも生まれていて盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排せつについて見やすい表にし、毎日チェックしています。収集した情報は主治医に提示して適切な支持をいただき支援に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後確実に口腔ケアを実施し、就寝前には義歯洗浄剤にて清潔を保っています。口腔ケアはおろそかにすると施設内の異臭になり、ご利用者さんも肺炎のリスクが増してしまいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導にてトイレに行き、排せつを促しています。尚週に1度来訪する看護師の指導の下、腸のマッサージなども行い排便を促しています。	「日中はトイレで」を旨としていて、職員2人の介助が必要となっても支援を続けることが出来ています。便秘は薬に頼らず、看護師の指導でお腹のマッサージをしたり、乳酸菌料も毎日愛飲して、結果につながっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の薬を飲んでもなかなか排せつがない方が多いですが、食事係が食物繊維が多い食材やアイスやスイカなどを工夫して提供し排便のコントロールを考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設では毎日決まった人数の入浴を行っていません。入浴の好きな方、日によって入浴をしたくない方もいます。無理強いはいしないで個々のペースを大事にしています。	週2回の入浴を目安としてはいるものの「入りたい」には応える態勢があり、実際3、4回となる人もいます。1階は機械浴、2階は一般浴で、現在皆壮健なこともあり、2階の一般浴を主に使用しています。雨天で外出ができない日は温泉の素を入れて愉しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当施設では就寝の時間も個々に異なります。夜遅くまでテレビを鑑賞したい方は許可をしています。居室についても火を使用するものや生き物以外は許可して今まで住み慣れた環境の下生活が継続できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服薬の状況は目まぐるしく変化していきます。当施設では受診ノートを活用し、薬の処方が変わった際にはどの職員もすぐに変更を把握できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴をみながら毎日の生活ができるだけ活動的になるよう工夫しています。些細な洗い物や野菜の皮むき、施設の畑の仕事など多岐にわたります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	受診の際にはできる限り車を使用せず、散歩や車いすを押して出かけています。時間もかかりますが季節の変化や見慣れ家並みがありこれからも継続して取り組んでいきたいと思えます。	外出支援は、利用者に「どこ行きたい?」と投げかけて、4月~7月のイベント期間中に職員がコーディネートしています。蓮花寺、御前崎港、小山城、静岡空港の他にも、大型ショッピングセンターのペットコーナーや農機具コーナーで回想法したりの外出が最近では流行っています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すぐ近くのお店にご利用さんと一緒に買い物をする機会を設けています。その際に可能な方はお預かりしているお金で自ら「買い物」をしていただいています。服を新たに購入する際も同様にしていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みも許可しており、本人の希望が叶うように配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理を徹底し、移動の導線上に障害物がないように配慮しています。やさしい色合いになるようなカーテンを使用し、窓も多く自然光が十分に入るように工夫しています。	前回課題があった清掃については掃除箇所や方法を見直し、「シーツ交換のときに」といったタイミングも定めて確実に是正しています。リビングに皆で集い、職員が話を廻して笑い声もこぼれ、明るく過ごしやすい共用空間です。	清掃については前回課題の箇所はクリアしていますが、事務室の床など未だすべてが清掃箇所となっていないようです。頻度は低くしたとしても、漏れがないような工夫が進むことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮をし、なるべく気の合うご利用者さんと交流できるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはできる限り今まで使い慣れたものを持ち込み可としています。テレビの持ち込みも可能であり生活しやすい環境を整えています。	中には小さ目の仏壇やチェストを置く部屋もありますが、事業所で用意した介護用ベッドが広く見えるほど、大きな持ち込みはなく、スッキリとしています。ペットと一緒に映した写真を大きく引き伸ばして、愛犬に囲まれて暮らす人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋などが分からなくなり、混乱することがないように配慮しています。また転倒事故などが起きないように施設内部の整理整頓に心がけています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295800078		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢静波 2階ユニット		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	令和1年5月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年6月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域密着型施設の名前の通り、地域交流に力を入れた施設運営を心掛けております。入所後身体的に負担が大きくなってきても関連施設との連携により長く安心して生活ができます。認知症は意思疎通が困難で笑顔が少なくなりがちですが、過去の生活歴を考慮しながらご利用者さんの残存能力を生かし笑顔が一つでも多くみられるように配慮しております。また入所に関係なくとも介護にかかわる様々な相談窓口としての施設運営を目指し、施設から地域へ、地域から施設へと地域密着型施設でしかできない活動発展に力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「働きやすい職場を」というビジョンを持ち、正規職員10名の内半分が5年以上勤務となり、徐々に目標が成果に結ばれつつある事業所です。職員の得意、不得意を見極めつつ、管理者の業務である請求や通院介助なども割り振ってゆき、職員の意欲とともに自主性を養っています。例えばポテンシャルがあってもパートタイマー職であることで取組む業務が制限される人には、敢えて相談業務の場面に同席させて正職への青写真が描けるよう支援したり、「どこからお金が発生して何に使われているかを実感することも大事」として請求業務を手伝う職員もいて、チームワークの良さもフロアに滲んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ただ介護する」ということに留まらなくしています 地域密着型施設とは何を指すための施設なのかを話し合い各フロアに提示し各職員が常に、繰り返し確認できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの来訪を積極的に取り入れ地域にもこの施設がどのような施設なのかを発信しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて施設発行の新聞に活動風景の写真をふんだんに掲載し活動状況をお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営指針会議を開催し、意見交換を交わしています。地域での心配事や、介護保険の制度の質問も話し合われます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて行政や包括支援事業者の方々にも参加をいただいています。目まぐるしく変化していく情報を共有しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な話し合いで分かりにくい身体拘束の行為についても話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はあってはならない行為です。施設内にカメラを設置しています。管理者が厳しくチェックしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で行政から権利擁護の説明をいただいています。独居暮らしの高齢者が困らないように学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後に「こんな話は聞いていない」など施設と、ご利用者さんで揉めてしまうのは入所前の説明不足によるものです。細かなことでもご利用者さんの立場になり説明をしています。またそれが一番揉めてしまうことを回避できる近道です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に何気ない会話でもなるべく家族とお話をするように心がけています。何気ない会話から家族が抱えている不安や、施設に対する思いも確認できる時があります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談にて介護報酬の話や処遇改善金について話し合う機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課」を導入し各職員が目標を計画し、業務にやりがいや考える力を養っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部が開催している会議に参加し、職員のスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業所連絡会に参加し意見交流の場を設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には家族の面談を密に行い施設入所への理解を深めています。納得してご入所していただかないと後々困ることが多くなります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族が抱えている不安にしっかり耳を傾け施設で取り込めることやすでに取り組んでいることを話し合い関係づくりにつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談＝入所ではなく、本人の家族の置かれている状況を把握し、場合によっては他のサービスの可能性についても親身になり相談を受けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相談＝入所ではなく、本人の家族の置かれている状況を把握し、場合によっては他のサービスの可能性についても親身になり相談を受けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な面会の際にもなるべく家族と会話をするようにこころがけ、最近の様子などをお知らせするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、それまでのかかりつけ医との関係をなるべく切ることがないようにできる限りの支援を続けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の活動をする場面を設け、ご利用者同士が交流できるように配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遠慮なく声掛けしていただけるように関係づくりに力を入れています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん一人一人に担当職員を配置し、ご利用者さんの意向の把握に努めています。その後スタッフ会議などで各職員が解決できない問題は話し合い解決できるような環境を整えています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前訪問をし、本人の意向や趣向を取り入れたサービス展開に力を入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の事前調査にてこれまでの生活スタイルをなるべく崩さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がスタッフ会議などで意見交換を行い、それぞれの職員が忌憚のない意見交換が行えるように配慮しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも連絡ノートを活用して問題点を即座に改善できるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったマニュアルでの施設生活の提供をするのではなく個々の状況に合わせた過ごし方を提供しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やボランティアさんを活用し本人の残存能力が発揮できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度病院より医師が往診に訪れご利用者さんの体調不慮について相談に乗って頂いております。往診では検査しきれない状態は甲賀病院へ受診をして適切な処置を行います。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に訪問していただき、健康の相談に乗っていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と密に連絡を取りながらにか心配事があるときにはすぐに相談できるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した際の対応について十分話し合い、当施設ですることや、関連施設の活用など説明しています。かかりつけ医にも同様の説明をおこない、医師の考えも参考にしながら家族への対応を考えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で緊急時の対応について勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。当施設にはスプリンクラーの設置もあり、法人内でも防災についての会議や研修を頻繁に行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議などで個人情報の取扱いについての重要性を十分に周知させ、職員一同個人情報の重要性に意識を持たせています。認知症で意思疎通が困難なご利用者にも人格があることを忘れず常に意識しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者さんに担当職員を配置させ、ご利用者さんの自己決定や、自己表現できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にプレーキをかけることがないように「今何ができるのか？」を常に考えご利用者さんの状態や天気や季節に応じてできることを考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は人としての動作では基本中の基本です。ご利用者が自ら整容するのは困難なため、職員が声掛けしながら丁寧に整容しています。尚服についても可能であれば一緒に買いものに出かけたり、着る服についても自ら選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さんの一番の楽しみは食事といっても過言ではありません。施設では外食の機会を多く設けています。当施設では食事係という係りが編成され、ご利用者の状況や好みを考察しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排せつについて見やすい表にし、毎日チェックしています。収集した情報は主治医に提示して適切な支持をいただき支援に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後確実に口腔ケアを実施し、就寝前には義歯洗浄剤にて清潔を保っています。口腔ケアはおろそかにすると施設内の異臭になり、ご利用者さんも肺炎のリスクが増してしまいます。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導にてトイレに行き、排せつを促しています。尚週に1度来訪する看護師の指導の下、腸のマッサージなども行い排便を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の薬を飲んでもなかなか排せつがない方が多いですが、食事係が食物繊維が多い食材やアイスやスイカなどを工夫して提供し排便のコントロールを考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設では毎日決まった人数の入浴を行っていません。入浴の好きな方、日によって入浴をしたくない方もいます。無理強いはいしないで個々のペースを大事にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当施設では就寝の時間も個々で異なります。夜遅くまでテレビを鑑賞したい方は許可をしています。居室についても火を使用するものや生き物以外は許可して今まで住み慣れた環境の下生活が継続できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服薬の状況は目まぐるしく変化していきます。当施設では受診ノートを活用し、薬の処方が変わった際にはどの職員もすぐに変更を把握できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴をみながら毎日の生活ができるだけ活動的になるよう工夫しています。些細な洗い物や野菜の皮むき、施設の畑の仕事など多岐にわたります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩や車いすを押して出かけています。時間もかかりますが季節の変化や見慣れ家並みがありこれからも継続して取り組んでいきたいと思ひます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すぐ近くのお店にご利用さんと一緒に買い物をする機会を設けています。その際に可能な方はお預かりしているお金で自ら「買い物」をしていただいています。服を新たに購入する際も同様にしていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みも許可しており、本人の希望が叶うように配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理を徹底し、移動の導線上に障害物がないように配慮しています。やさしい色合いになるようなカーテンを使用し、窓も多く自然光が十分に入るように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮をし、なるべく気の合うご利用者さんと交流できるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはできる限り今まで使い慣れていたものを持ち込み可としています。テレビの持ち込みも可能であり生活しやすい環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋などが分からなくなり、混乱することがないように配慮しています。また転倒事故などが起きないように施設内部の整理整頓に心がけています。		